のびゆく千代田

ホームページ掲載中

令和8年11月4日(水) 第9号



校長　熊谷千佳子

学校教育目標　ともにのびる	11月の生活目標　進んで身体をきたえよう

学力調査の結果を受けて

4月23日に6年生対象の「全国学力学習状況調査」(以下全国学調)を、5月7･8･11日には4･5･6年生を対象とした「埼玉県学力学習状況調査」(以下県学調)を実施いたしました。結果は夏休み直前に届き、これをもとに学力向上の課題と方策について職員で研修･協議を行いました。
総じて坂戸市の平均よりは若干上回っていますが、県や全国の平均と比較すると全体的に平均並みです。

全国学調:平均正答率(%)…実施6年生　(教科によって区分等が異なるのは届いたデータの通りです)

分類	区分	千代田小	埼玉県	全国
国語:全体		61	63	60.9
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	68.8	69.3	66.9
	情報の扱い方	57.6	53.8	52.3
思考･判断･表現力	話すこと･聞くこと	65.1	67.9	65.8
	書くこと	41.8	47.7	45.7
	読むこと	57.8	61.8	60.1

国語の結果から:正答分布をみると、13問中10問正解の児童が全国11.7%に対し、本校は16.5%と突出していて、中堅層が厚いのが本校の特徴です。特に「知識及び技能」全国平均を上回っています。
一方で「思考判断表現力」の領域の中でも特に「書くこと」に課題があります。また、白紙回答も18.8%(全国15.6%)と目立ちました。自信がない、書くことへの抵抗が強い等の理由が質問紙等から見られました。
方策:単に書くだけでなく、集めた情報から条件(段落構成や引用の仕方など)に合わせて記述する経験を強化する必要があります。短い文章から自分の経験を言語化する活動を日常的に取り入れ、文章を書くことへのハードルを下げたり、書いた文を見直したり読み合ったりしながら自信をもって書く力の向上に取り組みます。

分類	区分	千代田小	埼玉県	全国
算数:全体		55	57	56.4
学習指導要領の領域	数と計算	58.7	61.4	61.1
	図形	57.6	56.2	55.3
	測定	78.8	79.3	78.1
	変化と関係	39.6	42.0	41.1
	データの活用	47.6	49.6	48.6
評価の観点	知識及び技能	59.0	60.8	60.1
	思考･判断･表現力	43.2	49.6	48.6

算数の結果から：正答分布をみると、学力の二極化が見られます。13問正答の児童が全国を大きく上回り、本校は12．9％と強い山がある一方で、基礎段階の3問正答が全国4．2％に対し本校は10．6％と上回ります。
強みは「図形」の領域で57．6％の正答率（全国56．2％）と上回り、直方体の面を把握する問題等で空間把握能力を発揮しています。また、数的感覚では、96．5％と高い正答率を記録しました。
課題としては「変化と関係」を数学的に説明する問題や複雑な表を読み取る「データの活用」の正答率が低い傾向にあります。
今後の取り組みとして①基礎計算の定着…個別指導，AIドリルの活用、つまずきに合わせた課題設定
②説明する力の育成③情報の整理と活用…「なぜそうなるか」を言語化する活動、相互説明（学び合い）により理解を深める活動　…等を日々の指導でこれまで以上に着実に行います。

県学調：県学調は小4から中3まで個々の学力の伸びを追跡できるシステムで分析しています。

	国語　正答率(%)			算数　正答率(%)		
学年	埼玉県	坂戸市	千代田小	埼玉県	坂戸市	千代田小
4年生	51.6	48.2	46.8	56.2	55.5	47.6
5年生	59.9	55.4	58.8	47.4	42.5	42.8
6年生	62.2	58.0	61.5	46.7	42.0	44.3

＊レベルとは学力の段階を表す指標です。数字が大きいほどレベルが高く、C→B→Aと上がると数字が１つ上がります。

	国語　レベル				算数　レベル			
学年	埼玉県	坂戸市	千代田小	R7比較	埼玉県	坂戸市	千代田小	R7比較
4年生	5−B	5−C	5−C	—	5−C	4−A	4−B	—
5年生	6−B	5−A	6−B	+3	5−B	5−C	5−C	+1
6年生	7−C	6−A	7−C	+2	6−C	5−A	5−A	+1

全体的に国語は伸びが見られましたが、算数には課題が見られます。

国語に関して

▼「読むこと」（文章を正確に読み取る力）「情報の扱い方・言語文化」（資料や複数情報を関連付ける力）が弱い

○「言葉の特徴や使い方」（基礎的な語彙や言語事項）は定着が見られた。

方策：授業改善で重点的に取り組むこと

・「根拠を示して答える活動」
・「用紙や段落構成を捉える力の育成」
・「表やグラフを使った説明文の読解」
・「なぜそう考えたかを文章で表す活動」

算数に関して

▼全体的に平均を下回っている。特に「データの活用」「測定」の分野。

▼グラフの読み取りや、表の分析、単位量や測定場面での活用力にも課題が見られる。

方策：授業改善で重点的に取り組むこと

・「グラフを読む学習の定着」
・「実測活動を取り入れた授業」
・「解決過程を説明する活動」「単位換算や量感を身につける体験活動」

国語・算数に共通して資料の活用の力に課題があると言えますが、これは、社会科や理科の学習でも伸ばせる力です。また、日々の生活の中でも気候の変化と生活との関連（農作物の価格・漁獲量）等、情報と生活を結びつけて考える機会はたくさんあります。情報を上手に活用し生活とのかかわりを考える力は、これからの社会を生きる力として不可欠です。新聞・ニュースや天気予報などの情報を生活と結びつける会話は、お子さんの学力向上の一助となります。ご家庭でも、機会を見つけて話題にしてみてください。

質問紙調査(県学調)の結果から

▼課題として見えること･･･回答が平均を下回った項目

「どう学ぶかを考えているか」

「最後まで粘り強く取り組んでいるか」

これらの「学び方」を改善するために、

・計画を立てる

・見通しを持つ

・友達の考えと比較したり考えを説明し合って考えを深める

といった、これまでの取り組みをさらに丁寧に行うとともに、振り返りを習慣化して学び方の改良や、学びに向かう姿勢の向上につなげていきたいと考えます。

これまで本市が重点的に取り組んできている「学びづくり」の目指すものと一致しています。

･･･以上が県学調の結果の考察(要約)です。

より良い学びを学力向上につなげるために、授業を客観的に分析しました

今年度は調査結果の分析に加えて、教員の一人よがりの、「教えたつもり」の授業になってはいないだろうか。教員の意図授業は児童の実感に直結しているのだろうかという視点で意識調査を行い、授業のさらなる見直しを図りました。

見直しが必要な(教員の回答が高かった)項目は

①ねらいがわかる・見通しが持てる授業(ギャップ26.1%)

②質問や「わからない」が言いやすい雰囲気(ギャップ15.4%)の2項目でした。

つまり教員が「この時間の目当ては」とか「わからなかったら聞いて」と伝えていても、子どもたちの中には目当てをつかみきれないまま授業を受けている子や、「わからない」と思いながら我慢して授業を受けている子がこれだけいるということがわかります。見通しが持てているか、解決に向かえているか等、授業中の確実な見取りが求められる結果です。

一方で、教員と児童の意識が同程度に高かったのは

①授業の振り返りができている　②これまでの学びと新しい学びをつなぎ合わせて学ぶことができている

③学びが生活に活かせている　④説明を聞いて学ぶより話し合いながら学びたい　　の4項目でした。

教員の工夫や働きかけが児童の学びの意欲につながっていると言える結果です。

そして、児童の方が高く評価したのが

①仲間と話し合い解決する学び　②対話を通して自分の考えを持つ学び

③仲間の考えから自分の考えが深まる学び　④もっと知りたいと思える学び　　の4項目でした。

どれも教員より児童のほうが16～20%高い肯定的な回答でした。

長く続けてきた「学び合い」の授業の成果の表れとして嬉しい結果でした。

教員たちが、本気で授業改善に取り組んでいます。ご家庭でも、お子さんの頑張る姿や、伸びを感じられる場面で、お子さんが達成感・自己効力感を味わいながら、学び続けられるようお声がけいただけると更なる成果が期待できます。

自分で考え意見を適切に伝える喜びを味わわせるとともに、他者とつながり、違いを柔軟に取り入れながら思考を深める学びを重ね、これからの社会で生きる「ともにのびる」力の向上につなげることをめざしてます。